

茶碗

茶を飲む器の 変遷と多様性

初夏から晩秋にかけて関西の美術館・博物館9館が
緩やかに連携して茶碗を展示しています。

野村美術館では、その連携企画に関連して
茶碗をテーマとしたシンポジウムを開催します。

抹茶を飲む茶文化が日本に将来してから
800年以上が経過しました。

その間に抹茶を飲む器である茶碗の好みは
時代によってさまざまに変遷し、

その多様性は驚くほどの広がりを見せています。

茶碗の歴史と最新の研究動向などについて、

その先端を担う研究者たちが集い、語り合います。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日時 2023年 9月 3日(日)

13時～17時 (12時30分受付開始)

場所 kokoka 京都市国際交流会館 イベントホール

(京都市左京区栗田口鳥居町 2-1 ☎ 075-752-3010)

<https://www.kcif.or.jp/web/jp/building/kokoka/>

アクセス: 地下鉄東西線「蹴上」駅下車 徒歩約 6 分

申込・問合せ先

野村美術館 HP・電話・FAX・メールにて受付

<https://nomura-museum.or.jp>

☎ 075-751-0374 / FAX 075-751-0586

✉ nomurams@nomura-museum.or.jp

※最新情報はホームページをご確認ください。



御本立鶴茶碗 (野村美術館蔵)

プログラム

《テーマ》 茶碗 — 茶を飲む器の変遷と多様性 —

12時30分 受付開始

13時00分 概要説明

13時10分 現状説明と問題提示

「唐物茶碗について」

「高麗茶碗について」

「桃山時代の和物茶碗について」

「江戸時代の和物茶碗について」

15時20分 討議・質疑応答

17時00分 終了

谷 晃 (野村美術館 館長)

徳留大輔 (出光美術館 学芸課長)

降矢哲男 (京都国立博物館 調査・国際連携室長)

重根弘和 (岡山県立博物館 学芸員)

梶山博史 (中之島香雪美術館 学芸課長)

(討議の前後に、約 10 分の休憩時間を挟みます)

定員200名
入場無料

事前申込制
満席になり次第
締切